

**英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業
共通基盤型原子力研究プログラム
事後評価総合所見**

研究課題名：低線量・低線量率放射線被ばくによる臓器別酸化ストレス状態の検討 研究代表者（研究機関名）：鈴木 正敏（東北大学） 再委託先研究責任者（研究機関名）：遠藤 暁（広島大学） 再委託先研究責任者（研究機関名）：中島 裕夫（大阪大学） 研究期間及び研究費：令和元年度～令和3年度（3年計画） 30百万円	
項目	要 約
1. 研究の概要	<p>旧警戒区域の野生ニホンザルや動物実験マウスの臓器を採取し、被ばく線量評価と酸化ストレス状態の解析を実施することで、低線量・低線量率放射線の長期被ばくが酸化ストレス状態に及ぼす影響を臓器ごとに検討し、低線量・低線量率領域の科学的知見を蓄積することを目的とする。また、科学的に貴重な試料を多目的に利用可能な状態で保管・提供する体制を整備することを目的として、以下の項目を行う。</p> <p style="margin-left: 20px;">1) 被ばく線量評価 2) 生物影響解析とアーカイブ構築</p>
2. 総合評価	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px; font-weight: bold; font-size: 1.2em;">B</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1Fエリアにて生物のサンプルを入手し、データを取ることは、チョルノービリでもほとんど行われていないため、貴重なデータを取得したことに評価ができる。 ・ 一方で、評価手法の確立まで進んでいない。本提案の考え方に基づく影響評価については、実用化に至るまで更なる検討が必要である。 <p style="margin-top: 10px;">S) 特筆すべき優れた成果があげられている A) 優れた成果があげられている B) 相応の成果があげられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんどあげられていない</p> </div> </div>